

## 平成29年度試験研究課題の外部専門家との意見交換について

### 1 開催概要

- (1) 開催日 平成29年7月27日(木)
- (2) 場所 きぼーる15階第4会議室
- (3) 外部専門家 (公財)海洋生物環境研究所 日野 明德 顧問  
 (国) 東京海洋大学 田中 栄次 教授  
 (国研)水産研究・教育機構  
 中央水産研究所 野上 欣也 業務推進部長

### 2 検討課題と主な質疑

#### (1) 課題名 アサリ春季発生群稚貝の秋冬季減耗の要因解明と対策技術の検討(事前検討課題)

質疑	応答
<p>盤洲や富津の稚貝はどのように発生しているのか。東京湾の各地で同じような現象が見られるかという点にも着目してはどうか。</p> <p>稚貝の生残にサイズが影響しているのか。</p> <p>食害はどのような生物が考えられるか？広島ではクロダイなどの影響もある。</p> <p>対策器具は現場が使いやすいように簡単に手に入って使えるものが良い。</p>	<p>稚貝は様々な場所から供給されているという知見があり、意見を参考に他県も含め他漁場の情報も収集して進めたい。</p> <p>アサリは大きいほど深く潜るが、稚貝は表層しか潜れないため、波浪や食害の影響を受けやすい可能性がある。</p> <p>スズガモなど鳥による食害が報告されている。</p> <p>意見を参考に研究に取り組みたい。</p>

#### (2) 課題名 新たに生じたノリ生育不良の原因究明と対策の提案(事前検討課題)

質疑	応答
<p>研究として準備段階からしっかりとやっている。生長不足に金属塩が要因と仮定しているが、有機物の影響を検討してはどうか？</p> <p>食害について、メジナの影響もあるのではないか？</p> <p>生長不良と食害の時期は同じか。漁期前半に食害などの影響を受け、後半に生産を巻き返せるのであれば生産体制の変更を考える時期ではないか。そうした視点からも取り組んで欲しい。</p>	<p>意見を参考に検討していきたい。</p> <p>その可能性も含めて水中カメラでの調査で確認していきたい。</p> <p>生産者の中で生長不良と(食害による)短縮化が混同されてしまいはっきりとしていないため、今後の現場の把握も含めた試験を行い確認しながら進めていきたい。</p>

(3) 課題名 天然遡上魚を活用したアユ新系統群作出技術の開発(事後検討課題)

質疑	応答
<p>戻し交配をした種苗は警戒心が強いということであるが、それは1世代のみか。</p> <p>この成果により、冷水病の問題はかなり解決したのではないかと考える。今後、県が行う種苗生産については、継代をせず、戻し交配を毎年続けていけば良いと考える。</p>	<p>警戒心という指標では継代によりどの程度劣化するかはわからない。</p> <p>今後の計画では、戻し交配を継続しつつ、漁期の初期の友釣り対象に低い水温で縄張りを形成するものを別途短期継代で対応することを検討している。</p>